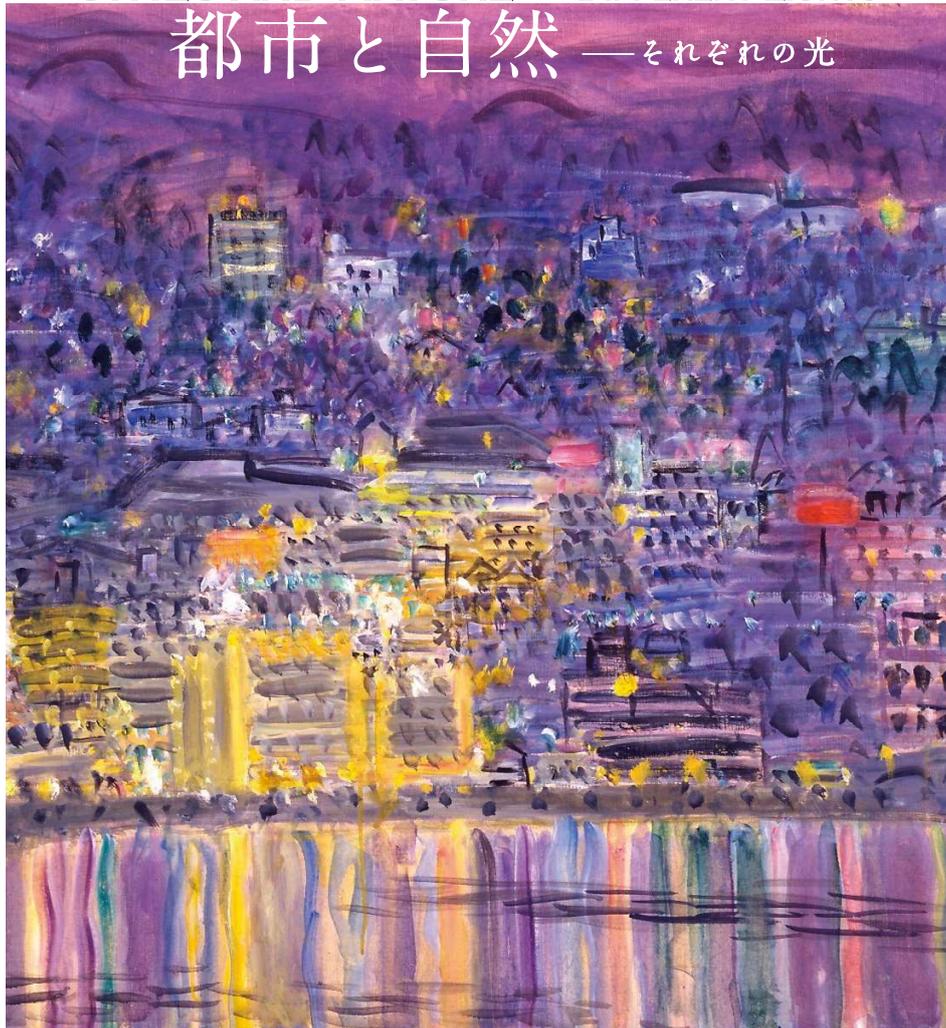


宮本三郎 MIYAMOTO SABURO
CITIES AND NATURE —DIFFERENT LIGHTS

都市と自然 —それぞれの光



宮本三郎《熱海夜景》(部分) 1963年

◆ 基本情報

- 展覧会名 宮本三郎 都市と自然 —それぞれの光
- 会 期 2025年11月1日[土]～2026年3月15日[日]
- 会 場 世田谷美術館分館 宮本三郎記念美術館
〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 5-38-13 TEL:03-5483-3836
<http://www.miyamotosaburo-annex.jp/>
- 主 催 公益財団法人せたがや文化財団 世田谷美術館
- 休 館 日 毎週月曜日 (祝・休日と重なった場合は開館、翌平日休館)、年末年始【12月29日(日)～1月3日(金)】
※11月3日(月・祝)、11月24日(月・祝)、1月12日(月・祝)、2月23日(月・祝)は開館、
11月4日(火)11月25日(火)、1月13日(火)、2月24日(火)は休館
- 開館時間 10:00～18:00 入館は17:30まで
- 観 覧 料 一般220円(180円)、大高生170円(130円)、65歳以上/中小生110円(90円)
障害者の方110円(90円)
※小中高大学生の障害者は無料
※介助者(当該障害者1名につき1名)は無料
※()内は20名以上の団体料金
※世田谷区内在住・在校の小中学生は土日、祝・休日は無料

◆ 展覧会概要

洋画家・宮本三郎（1905-1974）は、人物を描くことを得意としていた一方で、日本各地や滞欧先において、しばしば風景画も描きました。本展では、宮本三郎が描いた都市と自然、それぞれの風景を光の表現に注目してご紹介します。

戦後の東京では、復興から高度経済成長期にかけてビルが次々に建設され、都市化が急速に進みます。その時代の中で、1958年に完成し首都の新たなシンボルとなった東京タワーや、街中のビルの灯り、カラフルなネオンサインなどは、宮本が新たな都市の風景として選び取った題材でした。人工的な光にあふれる夜景は、都市に渦巻く欲望とエネルギーを、ネオン輝く光を通して表現したものと言えるでしょう。一方で宮本は、自身の出身地である石川県小松市をはじめ、箱根、長崎など、彼が訪れた各地の自然あふれる風景も描いています。自然の風景を描く際には、その土地特有の日差しの印象を巧みに描き分け、その場の空気や時間を表現しました。

都市と自然という、宮本の対照的なまなざしの先にある「光」をご覧ください。

□各画像は広報用として提供しております。ご希望の際は広報担当までお問合せください。

TEL:03-5483-3836 E-mail:miyamoto.annex@samuseum.gr.jp



1 《上野夜景》1964年



2 《海浜／海の記念日》1967-68年頃



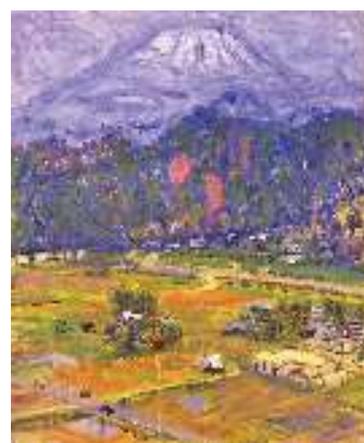
3 《東京タワー》1964-65年



4 《箱根》1962-64年頃



5 《(白山遠望／小松風景)》1968年頃



6 《(風景／富岳と山村)》1962年頃



7 《熱海夜景》1963年

※() は題不詳につき仮題

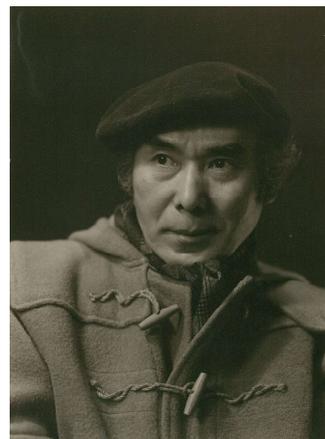
◆ 宮本三郎記念美術館

◆ 宮本三郎について

宮本三郎(みやもと・さぶろう)は、1905年5月23日に現在の石川県小松市松崎町に生まれ、1935年7月より世田谷区奥沢にアトリエを構えた、昭和を代表する世田谷区ゆかりの洋画家です。

川端画学校で富永勝重、藤島武二、また個人的には安井曾太郎に指導を受け、戦前は二科展を中心に発表を行いながら、雑誌の挿絵や表紙絵の制作でも活躍。戦時中は従軍画家として藤田嗣治、小磯良平らとともにマレー半島、タイ、シンガポールなどに渡り《山下、パーシバル両司令官会見図》(1942年)をはじめ、数々の作戦記録画を制作しました。戦後は、熊谷守一、田村孝之介らと第二紀会を設立。生来の素描力を土台に、さまざまに画風を変えながらも、人物を主たるテーマとして制作、晩年は花と裸婦を主題にした豪華絢爛な絵画世界を構築します。

1974年10月13日、腸閉塞による心臓衰弱のため、69歳で他界。



撮影 藤原正 (撮影年不詳)

◆ 会期中のイベント

ワークショップ、ギャラリートークなどのイベントは決定次第、宮本三郎記念美術館HP,SNSにてお知らせいたします。



参考：2025年8月9日～11日開催

「サマー・ワークショップ2025 あなたの椅子をつくろう！」

◆ 公式Instagram (宮本三郎記念美術館、ミュージアムショップ)



◆ お問い合わせ先

宮本三郎記念美術館 (広報担当)

Email : miyamoto.annex@samuseum.gr.jp

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-38-13

TEL : 03-5483-3836